

第 24 回 新型コロナウイルス：世界的な動きについて（4 月 27 日月曜日）

こんにちは。

長崎大学人、河野茂です。

前回は、草むらと火の粉にたとえて、新型コロナウイルス感染症の話をしました。
今回は、その世界的な動きについてです。

とまるところを知らぬ火の勢いは、世界に広がり、各国は、異なる対応・対策を講じています。そして、その結果に、差が出始めています。中国の武漢では、大きな鉄板を草むらにかぶせる都市封鎖を行い、その制御に成功しました。この様な対策は、我が国では法律的に難しく、参考にはなりません。

その点、韓国、ドイツは、それぞれ異なった対策をとり、現在、感染者数が減少し、このまま感染者の制御に成功すると思われています。どのような対策（火消しの対策）を取ったのでしょうか？

韓国は、一度、感染症の大火に被災しています。2015 年、中東呼吸器症候群（MERS）が流行し、その対応に苦慮した経験を今回の新型コロナウイルスの消火に活かしました。

まず、火の粉をいち早く見つける探知機を導入しました。
大量に PCR 検査（ウイルスの遺伝子を見つけ診断する検査方法）を導入し、ドライブスルー検査やウォークスルー検査などの手法で火の粉を見つけ出して早期消火に当たりました。

また、火の広がりを見つける方法も導入しています。陽性者の過去 14 日間の動きをクレジットカードの利用履歴や監視カメラの映像、携帯電話のデータなどから割り出す仕組みを導入しました。また、軽症者を病院ではなく生活治療センターに入所させることで、医療崩壊を阻止するなどの措置も行いました。

このような対応から、都市封鎖や外出制限といった人々の移動を制限なしで、現在、感染者数の減少フェーズに入り、制御に成功しようとしています。

ドイツは、韓国とは異なる方法で感染拡大の制御に成功しつつあります。

草むらと火の粉のたとえで言うなら、火の粉を知らないうちに運ぶこと防ぐ対策です。

国外との移動を制限し、火の粉が入り込むことを防ぎ、入り込んだ火の粉が巻き散らされることを防ぐため、人が集まるところの閉鎖やその際の経済的支援措置を中心に対策を進めています。ドイツ人の高いリスク意識の表れかもしれませんが、このような対策は、人々が受け入れやすい内容で、実施され、効果を発揮しました。

現在、感染者数の増加が減速し、このまま行けば、感染制御に成功するでしょう。

それでも、15万人を越える人々が感染しています。

日本は、韓国やドイツと同じではありません。日本なりの方法で対応する必要があります。これまでは、草むらの火の粉の対応に成功してきました。

しかし、じわじわと拡大を見せています。国外との交通がほぼ遮断されている現在、国外から火の粉が来る可能性は低くなっています。国内で火の粉を運ばないようにすることが肝心です。火の粉は見えません。ひとりひとりの行動が重要です。

これまで、感染制御が成功しつつある国でも、成果が表れるまでには2~3ヶ月を要し、かなりの規模の感染者に及びました。もう少しの辛抱です。がんばりましょう。

次回は、我が国の今後、長崎はどうなる？について述べてみます。